

<h1>指導資料</h1>		<h2>家庭、技術・家庭科第41号</h2>	
		 鹿児島県総合教育センター 平成28年4月発行	対象校種 幼稚園 小学校 <input type="checkbox"/> 中学校 <input type="checkbox"/> 高等学校 <input type="checkbox"/> 特別支援学校

家庭科における問題解決的な学習の充実 — 「判断基準」の活用を通して —

問題解決的な学習の充実は、家庭科、技術・家庭科においてより一層重視されており、思考力・判断力・表現力等の育成と関わりが深い。そこで、当センターが研究を進めてきた「判断基準」を活用した授業づくりについて紹介する。

1 家庭科における問題解決的な学習

中学校技術・家庭科家庭分野，高等学校家庭科における問題解決的な能力の育成については，学習指導要領において次のように明確に示されている。

【中学校技術・家庭科 家庭分野の目標】

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して，生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，家庭の機能について理解を深め，これからの生活を展望して，課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

【高等学校の目標】

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ，家族・家庭の意義，家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに，生活に必要な知識と技術を習得させ，男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

(下線は筆者による)

このことから，学習したことが，実際の生活の場で生きて働く力となることが必要である。そのためには，まず，教科の特徴である実践的・体験的な学習活動を通して，基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる。次に，習得したことを生かして各自の家庭生活や地域の生活と結び付けて生活上の課題を発見し，解決法を考え，計画を立

て，実践できるような能力を育成することが求められる。したがって，学習したことを生活と関わらせて課題を把握させたり，課題解決を目指して工夫させたりする学習指導が重要となる。

2 「判断基準」の設定

問題解決的な学習における目標達成の度合いは，主に「思考・判断・表現」に相当する観点で評価することから，当センターが研究を進めてきた「判断基準」の活用が効果的であると考えられる。「判断基準」は，思考力・判断力・表現力の育成を確かなものとするために，評価規準に基づき設定するものである。関連する主な用語について，次ページにまとめる。

評価規準を基に「判断基準」を設定することで，教師は身に付けさせたい力やその結果として表現される状況を明確にもつことができる。また，「判断の要素」を活用し，授業のどの場面で，何を使って，どのよう

に評価を行うかなど、より具体的に授業を構想していくことも可能となる。生徒の思考・判断の結果として表現される「予想される表現例」を想定し、それぞれの特徴をまとめておくことは、「A状況」（十分満足できる状況）、「B状況」（おおむね満足できる状況）あるいは「C状況」（努力を要する状況）と判断する際の基準が明確になり、評価の信頼性を高めることにもつながる。

【判断の要素】
「思考・判断・表現」の評価基準を分析し、目標達成の度合いを判断するための要素を示したもの

【判断基準】
児童生徒の思考・判断の過程やその結果として表現されたものを質的・量的な面からよりよく評価するために設定した尺度。「判断の要素」の「おおむね満足できる」状況（B状況）を具体的に示したもの

【予想される児童生徒の表現例】
思考や判断の結果として表現された内容のうち「おおむね満足できる」状況（B状況）と判断される表現例を明記したもの

【補充指導】
「努力を要する」状況（C状況）と判断した児童生徒に対して、「おおむね満足できる」状況（B状況）へと導くために、考え方や具体例等を示す指導

【深化指導】
「おおむね満足できる」状況（B状況）にある児童生徒に対して、思考・判断の質的な深まりを促したり、課題解決の多様な方法に気付かせたりして「十分満足できる」状況（A状況）へと導く指導

3 指導の実際

次の実践例は、鹿児島市立吉田南中学校の柿元慶子教諭の取組を基に作成したものである。

(1) 主題名及びねらい

ア 本時の主題

幼児と遊ぶおもちゃづくりをしよう

イ 本時のねらい

幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方について考え、工夫させる。

(2) 「判断基準」の導き方

評価基準を基にした、「判断基準」の導き方を図1に示す。

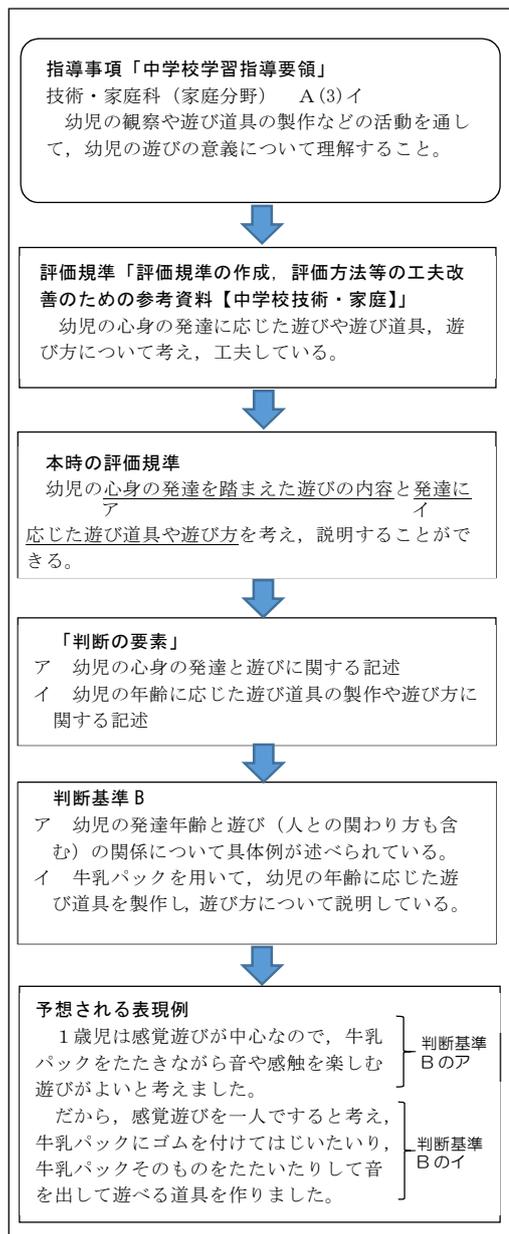


図1 「判断基準」の導き方

(3) 「判断基準」に基づく教材・教具の工夫

「判断基準」を設定することにより、教師はより効果的な教材・教具の準備が可能となる。図2は判断基準Bを基に、「予想される表現例」として教師が製作した遊び道具である。中学校学習指導要領解説技術・家庭編に「自然の素材や身の回りのものも遊び道具になること」とあることから、本時では共通の材料として、牛乳パックを用いた。また、共通の

材料を活用することで、幼児の年齢に応じた遊び道具や遊び方を比較しやすくなり、より効果的であった。予想される表現として製作した遊び道具は、本時のねらいを理解させる上でも効果的で、生徒の活動が活発になった。



図2 1歳児を想定した遊び道具の例

図3は思考の流れに沿うよう工夫したワークシートと指導上の留意点である。

(4) 既習事項の振り返り

基礎的・基本的な知識及び技術を適切に活用させ、思考を深めたり、多面的に

思考させたりするために、教師は習得させるべき事項を明確にするとともに、フラッシュカード等を用いるなどして、確実に習得させておく必要がある。また、導入においては、活用する知識や既習の学習において思考した内容等を十分に振り返らせるとより効果的である。

(5) 補充指導

課題解決につなげるための既習事項に気付くことができない生徒に対しては、次のような補充指導を行った。

図3の2-(1)の場面で、5歳児の社会性や遊びの発達の特徴について、知識としては習得しているが、活用すべき知識として理解できていない生徒の場合
 例：3歳児は、「友達と協力して、模倣遊び」をするという特徴を知識として習得しているが、十分な理解となっていないので、遊び道具の製作や遊び方の工夫を考えることができない。
 幼児との触れ合い体験での記録を示し、幼児の興味・関心等実際に触れ合ったり、観察したりした際の様子を想起させ、特徴を明確に理解できるよう助言する。

1
幼児の発達年齢による特徴を比較しやすいように工夫した、自作のVTRを用いて2歳児と5歳児が遊ぶ様子を視聴させる。その際、遊び道具や遊び方の違いに気付かせるための助言を与える。

技術・家庭科（家庭分野） 年 組 番 氏名

1 「2歳」と「5歳」の幼児の遊びの様子を比較して、気付いたことを書いてみよう。

[2歳の幼児（男の子）]	[5歳の幼児（女の子）]
--------------	--------------

学習記録

2 **【「判断基準」に基づく評価の場面】**

2-（1）既習事項や幼児の観察の記録を踏まえ、人との関わり方や遊びの特徴を明確にさせる。

人とのかわり方	遊びの種類
大人と遊ぶ	感覚遊び
一人で遊ぶ	運動遊び
友だちのそばで遊ぶ	受容遊び
友だちと協力して遊ぶ	模倣遊び
大勢でルールを決めて遊ぶ	構成遊び

3 まとめ

今日の授業を振り返って、考えたことや感じたこと、これからの生活にいかしたいことを書きましょ。

2-（2）幼児の特徴を踏まえ、遊び道具や遊び方、遊ばせ方について考えさせる。その際、幼児との触れ合い活動における記録を基に運動機能や言語、情緒、社会性等に基づき考えられるよう助言する。個人で考えさせた後、班で検討し、協働して課題に取り組みませ、その結果を記述させ、「判断基準」を基に評価する。

3 幼児との関わり方について、自分の生活における学習内容の生かし方を記入させ、意欲化を図る。

図3 ワークシートと指導上の留意点

(6) 深化指導

「十分満足できる」状況（A状況）と判断される生徒の基準は、次のように設定した。

判断基準Bに加えて

- 幼児に関わる際の配慮事項についても触れられている。
- 幼児は、遊びながらその内容を工夫し、発展させていくことについても説明している。
例：色紙で果物や花を作った後、それを使ってお店屋さんごっこに展開していく。など

深化指導として、幼児が遊びを工夫し、発展させていく様子に気付かせるための自作のプレゼンテーションを活用した。その結果、判断基準Bに達している生徒の中には、更に思考を深めることができた生徒もいた。図4は、生徒が製作した遊び道具と表現した内容である。深化指導に加え、協働して課題追究に取り組む場を設定したことも思考の深まりにつながったと考えられる。

【製作した遊び道具】



【生徒の表現】

5歳児は、ルールを決めて大勢で遊ぶことができるので、的当てを作りました。当てる場所に印を付けて、倒れやすいように工夫しました。倒した数で、仲間と競えるようにすると視覚的に理解しやすくなると思いました。また、うまくいかない子供には、遊びが継続するように私たちが補助しながら遊ばせます。

幼児に関わる際の配慮事項についても触れ、創意工夫した結果を自分の言葉で表現している。

図4 A状況と判断される生徒の製作物とワークシートの記入例

(7) 課題設定の工夫

幼児と触れ合う活動は、学習のまとめ

として行うことが多いが、指導計画を工夫し、本時では、触れ合い活動において関わったり観察したりした学習を基に、幼児の年齢に適した遊び道具の製作と遊び方の工夫について考えさせている。生徒は、幼児の心身の発達に応じた遊び道具の製作活動に先立ち、実態をよく捉えており、解決への意欲を高めやすかった。

課題の設定に当たっては、主体的に取り組ませる過程が重要となるため、解決の必然性があることや、意欲を高める課題であることが望ましい。また、単元や題材の評価規準に示した内容と課題との整合性にも留意しなければならない。

本実践のように、課題解決を目指して思考・判断・表現する学習活動を効果的に位置付けることで、「生活の課題と実践」や「ホームプロジェクト」等の問題解決的な学習の充実が図られることが期待できる。

また、「おおむね満足できる」状況（B状況）と判断される典型的な表現の例と、判断が難しかった表現の例等を保管しておき、研究会等で検討したり、「判断基準」を活用した共同研究等が活発になされたりすることを通して、その妥当性を向上させ、ひいては「判断基準」の活用が継続的な授業改善につながることを期待したい。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編』平成20年、教育図書株式会社
- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭編』平成22年、開隆堂出版株式会社
- 国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】』平成23年、教育出版株式会社
- 北尾倫彦監修『観点別学習状況の評価規準と判定規準 中学校技術・家庭』平成24年、図書文化社
- 鹿児島県総合教育センター『研究紀要通巻第119号』平成27年4月

(教職研修課)